令和4年度　自己評価結果公表シート　　吹田市立認定こども園岸部第一幼稚園

1. 本園の教育目標　　たくましく 自立できる子どもに育てよう

・心身ともにいきいきした子　・意欲的に遊べる子

・心ゆたかな子　　・個性を認めあい、たすけあえる子

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

努力目標　　あんしん いきいき うれしい えがおで おもいつたえあおう

～一人ひとりが自分の思いを表現できるような教師の援助方法について考える～

3. 評価項目の達成および取組状況

評価項目	結果	理由
(1)努力目標について	A	一人ひとりの子供の気持ちを丁寧に聞き取り、気持ちの整理を共に行い、代弁しながら言葉で表現できるよう援助してきた。コミュニケーションを取る方法についても、個人に応じた援助を考え、行った。
(2)ねらいや指導内容を明確にし、保育に取り組む	B	子供の姿を捉えることを大切にし、ねらいを明確化し、保育内容を吟味した。自己発揮をすることで自信をもって生活し、人との関わりや繋がりをもてるようなクラス運営を行った。
(3)職員の連携を図り、安心・安全な園生活に努める	A	感染症対策について変化に応じた対応を連携して行い、安心安全の保育に努めた。一人ひとりの子供の姿や育ちについては、職員の連携や共通認識を図り、課題や支援方法を明確にし、関係機関との連携も含め、丁寧に取り組んだ。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	心身ともに安心・安全を第一に考え、園児、職員においても努力目標の達成に向けて取り組んだ。突発的な対応があった際にも連携を密にとることで乗り越えることができた。保育内容や進め方を柔軟に、また職員間の連携や共感を大切にすることで、子供の思いに寄りそった援助や手立てを行う事ができた。保育内容の質についても研究保育を通して学びを深めることができた。

◎「3.4.」の評価結果の表示方法　A 十分達成されている　B 達成されている

C 取り組まれているが、成果は十分でない　D 取り組みが不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的取り組み方法
1. 異年齢のかかわりを通しての保育	異年齢の交流を行い、3 年保育を見通して意図的なかかわりや自然なかかわりについて工夫する。また、小学校等の交流を行い、幼保小の架け橋プログラムについても考える。
2. 特別支援教育の充実を図る	一人ひとりの子供の姿や育ちについて丁寧に捉え、課題や支援方法を明確にすると共に、職員連携を密にとり共有する。
3. 職員の資質向上について	教材研究や指導方法など、研究保育や意見交流を密に行い、資質向上を図る。